

世界糖尿病デーと1型糖尿病患者会



糖尿病内分泌科 山下滋雄

11月14日は、「世界糖尿病デー」です。1921年、カナダはトロント大学のバンチングとベストラが、インスリンの結晶化に成功したとの学会報告をしました。翌1922年には臨床応用され、唯一の対症療法であった糖質制限をしてもなお数ヶ月しか生き延びることのできなかったインスリン依存型糖尿病患者に光明をもたらしました。インスリン依存とは、生命維持にインスリン注射が不可欠な状態を指します。インスリン依存状態に至る糖尿病は、現在「1型糖尿病」と呼ばれています。

2006年12月20日の国連総会において、「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」が採択され、同時に11月14日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進することが決定しました。この日は、インスリンを発見したバンチング博士の誕生日です。その決議を受けて、2007年から世界各地でイベントが開催されています。世界糖尿病デーのシンボルマークは、「ブルーサークル」です。国連カラーであるブルーを、世界中に広める願いが込められています。当院の糖尿病サポートチームも、遅ればせながら今年初めて4階講堂で糖尿病デーのイベントを開催しました（写真1）。



写真1

我が国の糖尿病患者は1000万人に達したとされていますが、1型糖尿病は日本人糖尿病患者100人に対して3人から5人といわれています。この

うちインスリン依存状態の人は、10~14万人との試算もあります。治療の基本はインスリン療法で、食事制限や運動療法は必ずしも必須ではなく、血糖値が激しく上下しないよう上手にインスリンを調整することにより、普通の人と変わらない生活を送ることが目標です。そのための薬や機器は近年急速な進歩を遂げており、インスリンを持続的に注入するポンプや、血糖値を連続的に記録するパッチ電極のシステム、さらにそれをスマートホンにデータ送信できる装置などが、保険でまかなかなるようになりました。

このような最新の情報を共有し連携するため、糖尿病の中でも少数派である1型糖尿病患者の有志が立ち上がり「東京 DUKE's」が結成されました。「デューク」は新宿の「ジュク」をもじっており、Type 1 Diabetes Patients Updating Knowledge and Empowerment（知識と知恵を常に更新する1型糖尿病患者）の頭文字をつなげたものです。10月27日、第1回東京DUKE's Meetingが当院2階研修ルームで開催されました。患者さんとその家族、医療スタッフを合わせて47名がミーティングに参加し（写真2）、引き続き近くのタイ料理店で行われた懇親会にも、25名が参加しました。当院は、この患者会活動を全面的にバックアップ、サポートします。入会希望の方は、当院内科②外来受付にどうぞ。



写真2